

コスモスの花、咲く



利用者みなさんで、せっせせっせと制作したコスモスが、先月中旬より(ずっと)見頃を迎えております。咲き出したころは「ちょっと時季が早いのでは?」と思いましたが、あっという間に季節が進んで長袖がちょうどよい気温になりました。



植いき新聞



植物いきいきサークル

第104号
発行者:川端、菅原、
村田、孫崎、古新

「ゲンショウコ」の証拠

うわさの「ゲンショウコ」(右写真)

<http://yaesozai.xsrv.jp/wordpress/wp-content/uploads/2009/12/1-3.jpg>

先月の園芸サークルにて話題になったゲンショウコ。花言葉は「心の強さ」です。¹⁾ 今からおよそ 300 年前に貝原益軒が記述した「大和本草」にも取り上げられました。古くから下痢止めなどとして使われてきました。^{2) 3)} 有効成分は「タンニン(tannin)」と言われており、茎や根と比較して、葉に多く含まれています。⁴⁾ ゲンショウコに含まれているタンニンは「ゲラニン」と呼ばれ、精製してできた結晶をなめてもほとんど味は感じられないそうです。⁵⁾ 余談ですが、渋柿に含まれている「柿渋(カキタンニン)」は強烈な渋味を示すとのこと。このゲラニンさんが、腸管壁に結合保護し、細菌の毒素の侵入防御、腸液分泌や外界からの刺激を抑制、下痢を止める働き(収斂薬)があるそうです。⁵⁾

別名「医者いらず」の民間薬として広まったことにも納得しました。



1) ラジオ深夜便 2016年09月号7頁 (NHK サービスセンター)

2) <http://www.e-yakusou.com/yakusou/146.htm> (2016/10/7 閲覧)

3) <http://www.nakamura-u.ac.jp/library/kaibara/archive01/pdf/b09.pdf> (2016/10/7 閲覧)

4) <https://www.town.ibigawa.lg.jp/0000000143.html> (2016/10/7 閲覧)

5) 奥田拓男: 日本の代表的民間薬ゲンショウコ: 生薬のタンニン研究の原点, 生薬学雑誌 53(Supplement_2), 52-54, 2000-02-20